

○23番（大條雅久）（登壇） 自民クラブの大條雅久です。

昨年12月の議会質問で取り上げました平成16年災害に関する記録が新居浜市の公式ホームページに結構詳しく掲載されており、ほっといたしました。災害後20年以上たち、私たち自身の記憶の風化だけでなく、災害後に生まれた世代に対する災害体験の継承、伝承が課題に感じていましたからよかったと思います。当時、10を数える台風が日本列島に來襲、上陸したこと、ふだんの年なら台風の進入が珍しい瀬戸内海側の愛媛に5つもの台風が來襲した、未曾有の災害であったこと、そして120年前の明治32年に、当時の新居郡や宇摩郡、現在の東予地区東部が被災した別子大水害にも匹敵する大風水害であったことは、今後も長く記録にとどめていただきたいと思います。

特に、今回、平成16年の災害を掲載していただいているホームページを拝見すると、PDFの資料は、グラフや写真、地図を使うことで、被害の状況がより具体的で鮮明に読む方に伝わるとと思います。私も台風21号で起きた土砂崩れで4人の犠牲者が出た大生院の現場の被災写真をホームページで拝見し、当時、救助活動に携わられた消防団員の方が、救助活動中の二次災害を防ぐため、現場に到着したが、すぐには救助活動にかかれなかった悔しさを語っていたことを思い出しました。PTSDとも言える感情が直接被災した方々だけでなく、救助に携わる職員や市民の方にも容赦なく迫る苛酷な災害が、自分自身や家族に、そして身近な地域の方々にいつ降りかかるか分かりません。平穏な日常が過ごせる平時にこそ、不断の防災・減災意識の醸成が大事と思う次第です。

それでは、通告に従い、質問に入ります。

前回の議会質問では、災害時への備えや大災害時の対応を中心に質問させていただきましたが、今回は少し視点を変えて、日常生活の中で起きる不安や不満、日常生活での困り事について、行政の対応や備えについてお聞きいたします。新居浜市としてのお考えや今後の対応方針について御答弁いただきたく存じます。

まずは、防犯灯の故障対応についてです。

防犯灯が昼間でもついたままが大丈夫か、防犯灯が夜になっても点灯しない、大丈夫か、危険だから修理してほしいといった要望や防犯灯の修理を市役所に依頼したが数週間かかると返事された、事故や犯罪が起きないか心配だとの御意見を聞くのですが、最近、防犯灯の不具合が増えているといったことがあるのでしょうか。また、防犯灯の維持管理に関して以前と変わった事情があるのでしょうか。二、三年前とは対応が変わったようだとおっしゃる方がいました。防犯灯の維持管理について、3年前と現在では事情が変わっているのでしょうか、御説明ください。

現在、新居浜市内に設置されている新居浜市管理のLED防犯灯は約9,100基とお聞きしています。そして、そのLED防犯灯の9割、約8,200基は平成26年に一斉にLEDに交換されたものです。LED防犯灯の寿命は一般的に6万時間、約10年から15年とされています。今年で新居浜市内のLED防犯灯が一斉に設置されてから12年目を迎えます。

す。点灯不良の故障や照明器具としての耐用年数が尽きたと判断される防犯灯の不具合発生はどのような模様でしょうか。LED防犯灯本体の故障ではなく、電力会社が所有者になっている自動点滅器の不具合や寿命が原因の修理が多く発生しているとお聞きしたので、調べてみました。一般社団法人日本照明工業会のホームページに、防犯灯、街路灯の自動点滅器は適正に交換しましょうと題するページがありました。自動点滅器の役割は、夜暗くなったら自動的に防犯灯や街路灯を点灯させ、朝明るくなったらそれらを消灯させるものです。自動点滅器の耐用年数は長寿命型で10年から15年、JIS規格に規定する性能が維持できるであろうと言われる期間は8年から10年とのこと。LED防犯灯本体の交換修理より、従来は自動点滅器が原因の修理のほうが多かったという理解でよろしいのでしょうか、この点も御答弁ください。

しかし、これからは、LED防犯灯本体の耐用年数が近づいていきますので、ひょっとするとあちらこちらで一斉に暗くなっていくとか、幾つもの防犯灯が同時期に点灯しなくなるといった事態が起きるのではないかと危惧しております。LED照明の性質としては、白熱球のように寿命が尽きてぷつんと消えてしまうのではなく、明るさが8割、7割とだんだん弱くなる、明るくなくなるのが特徴だそうです。一斉に暗闇になるわけではないのですが、耐用年数が過ぎて、だんだん暗くなっていて、気づいたときには防犯の機能や安全確保の機能が低下していたというのでは残念なことが起きるかもしれません。今後のLED防犯灯の維持管理について、新居浜市の対策なり計画について説明を求めます。御答弁よろしく願いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。沢田市民環境部長。

○市民環境部長（沢田友子）（登壇） 大條議員さんの御質問にお答えいたします。

防犯灯についてでございます。

まず、防犯灯が故障した際の対応についてお答えいたします。

本市では、平成26年から令和6年までの10年間、LED防犯灯に関するリース契約を締結しており、この期間中に防犯灯の不具合が発生した場合には、契約事業者が一括して修繕などの維持管理を行う体制としておりました。

しかしながら、当該リース契約が終了した令和6年12月以降につきましては、リース契約更新は行わず、市が個別に修繕する体制へと移行しております。

防犯灯に不具合が生じた際には、まず自動点滅器の点検及び修繕を四国電力送配電株式会社へ依頼し、その対応後もなお不具合がある場合には、別途電気工事業者へ防犯灯本体の修繕を依頼する手順により対応しているところでございます。

次に、防犯灯の寿命についてでございます。

防犯灯の不具合の件数につきましては、過去3年間の自動点滅器の交換件数は、令和4年度117件、令和5年度106件、令和6年度126件でございます。また、防犯灯本体の交換件数は、令和4年度ゼロ件、令和5年度4件、令和6年度12件となっております。これらの状況から、防犯灯の不具合の約90%が自動点滅器に起因しており、従来から防犯灯本体

よりも自動点滅器の故障が多い状況となっております。耐用年数を踏まえますと、防犯灯本体や自動点滅器の交換件数は今後も増加していくものと想定しております。

次に、防犯灯の維持、整備の計画についてでございます。

本市では、防犯灯の不具合が報告された際、その原因を分析するとともに、定期的に照度の測定を実施するなど、平素より防犯灯の状態把握に努めております。

今後の維持管理につきましては、先ほど申し上げましたとおり、電力会社や電気工事業者と連携しながら適切な保守管理を継続してまいります。

また、今後の整備計画につきましては、不具合報告の件数の推移や照度低下の状況などのデータを踏まえながら、市民の安全確保を最優先に、更新、整備を行うべき適切な時期や方法を検討しながら進めていく予定でございます。

○議長（田窪秀道） 大條雅久議員。

○23番（大條雅久）（登壇） 既に検討を始められてるということでひとつは安心なんです。現在の修理の段取りをお聞きしましたところ、ほぼ防犯灯の故障の9割が自動点滅器にあると、自動点滅器は四国電力所有だから四国電力に直していただかないかということには理解いたしましたが、四国電力送配電ネットワークコールセンターへ連絡をして、点検及び交換が必要かどうかの結果は2週間以内に報告を受けると担当課からお聞きしました。2週間は防犯灯は消えたままで仕方がないというふうにお考えなのか。この2週間って結構地域にとっては長いです、いや、2日、3日でも怖いです。ふだん明るかった交差点、ふだん明るかった自分の住宅地の街角が真っ黒になる、それが1日じゃ終わらない、10日、14日かかるんでしょうか。現況、これらへの対応についての改善はどうされようとしてるのか、お教えてください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。沢田市民環境部長。

○市民環境部長（沢田友子）（登壇） 大條議員さんの御質問にお答えいたします。

防犯灯の修繕期間の改善ということへの御質問だと思います。

現在、市民の皆様から防犯灯の不具合があるというふうな連絡をいただきました場合には、これまでは四国電力のコールセンターに電話をして不具合の修繕依頼をしておりましたが、現在は電話依頼からチャットでの依頼に変更して、少しでも対応の時間をスピーディーに進めるという対応に変更しております。また、四国電力送配電の内部での連絡体制を強化してもらうように協議をいたしまして、2週間という修繕期間、これをちょっと超えるような対応もこれまでにあったということも伺っておりますので、その2週間という期間以内に対応していただくように協議を進めたところでございます。

○議長（田窪秀道） 大條雅久議員。

○23番（大條雅久）（登壇） 防犯灯の修繕に関してはまだまだ検討の余地があると思いますし、四国電力にも御都合があるんだと思います。

ただ、さっき言った自動点滅器が故障している、それを交換して直ればいいんですが、そうでない場合

は、今度は改めて電気工事の指定業者さんに依頼をして交換してもらおうと。トータルで対応のスピードアップという意味では工夫をぜひしていただきたいし、この3年以内に9,000近くのLED本体の寿命が来るだろうと、ぜひこれに対してどうされるのか、検討を早く進めていただくことを御依頼申し上げます。